

おもしろ! ザ・アリワールド

第3回「撮影で起こったキセキの話」

じゅり
吉澤樹理

東京・立教大学教育研究コーディネーター

みなさん、あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

昨年11月から始まった『おもしろ! ザ・アリワールド』も今回で3回目。前回までに、著者の吉澤樹理のアリにはまったきっかけ(11月号)、アリ採集にまつわるよもやま話(12月号)などを紹介してきました。「まだ読んでないけど、ちょっとおもしろそうだな?」と思われた方は、ぜひ読んでみてください。

さて、今回は「撮影で起こったキセキの話」を紹介したいと思います。

🍷 いざ出陣! 写真はToughで。動画はスマホで。

小さな生き物を撮影するには、きっとそれなりのごっつい撮影機材が必要なのでしょうが……わたしと編集担当の荒木さんが手にした機材といえば、わたしはオリンパスのカメラ「Tough

(TG-4)」, 荒木さんはスマートフォン (iphone8 plus) でした。

なんとも頼りなさそうですが、『身近なアリけんさくブック』で使う写真と動画は、すべてこの2つで撮影することにしました。というのも、制作費の大部分は「インデックス付き」というその特殊なつくりにかけること、また、特別な機材がなくても、身近なものでこれだけ撮影できるという読者の方への参考事例にもなるようにという理由から、荒木さんと話し合っ



めたのでした。カメラ「Tough」は、ふつうのコンパクトデジタルカメラですが、すごいのは、アリなどの小さな生き物もくっきり写すことができる「顕微鏡モード」という機能です。単にアリに近寄って撮ってみても、まずピントが合いませんが、この顕微鏡モードを使い、別売りのライトを装着することで、接写1cmでも驚くほど明るくきれいに撮ることができるのです。今回撮影した中でいちばん小さかった体長1.5mmのサクラアリも、「Tough」のこの機能のおかげで撮影することができました。

それでもやはり、生きたアリはとにかくちょこまかと動くので、撮影するのは大変でした。かつおぶし(*1)をまいてみたり、カロリーメイトを置いてみたり、荒木さんが作った特製(?)砂糖水を使ってみたりと、動きを止めるために試行錯誤



▲かつおぶしに集まる「ヒメアリ」 ▲砂糖水に集まる「キイロシリアゲアリ」

の連続でした。

そんな中でも、カメラを片手に這いつくばってアリを追いかけていると、ときどきシャッターチャンスが訪れます。どんなアリでも、ふとした瞬間に動きを止めることがあるのです。まわりの様子を確認したり、身づくろいをしたり、休憩したり、砂糖水を飲んだり……。そんな時は、すかさずシャッターを押し続けました。絶対に撮り逃すまいと、その瞬間を発見するたびに連写モードで撮影した結果、すべてのアリを撮影し終わったころには、5枚ものメモリーカード（総容量およそ72ギガバイト！）を使い切っていました。

わたしが地面に這いつくばっている間に、荒木さんは自前のスマホで動画を撮影していました。カメラを固定する三脚をあるでもない、こーでもないでセッティングして、さあ撮影！と思ったら、その間にアリは歩いてどこかに行ってしまう……というイタチごっこを最初は繰り返していましたが、途中からはお互いに協力し合って、木の皮をわたしがめくり、荒木さんが出て

きたアリをすかさず撮影する、という感じで進めていきました。



スマートフォンで撮影する様子



枯れ木の中にアリの巣を発見！

👁️ すごいぞ！ズームレンズ

動画はスマホの拡大機能をフル活用しての撮影でしたが、当然、拡大するのにも限界がありました。携帯電話で撮影したと思えば十分きれいではあるかもしれませんが、やはりズームにすればするほど画像は荒くなり、「Tough」の写真の精細さとは比べ物になりませんでした。

どうしたものかなあ、と荒木さんと悩んでいた時、ちょうど神奈川県横山裕子さんからスマートフォン用のズームレンズのことを教えていただきました。そのズームレンズ(*2)は100円ショップの「セリア」で売って



スマホのカメラに取り付けたズームレンズ

るものなのですが、これがすごくいい！ 1mm～2mmの小さなアリの細かな動きや、からだのつくりを、はっきりと見ることができるのです。荒木さんも大興奮で撮影していました。



▲ズームレンズで撮影した体長2.5mmの「アミメアリ」。特徴の凹凸柄が見える！

こうして悪戦苦闘して撮影した写真や動画は、来春発売の『身近なアリけんさくブック』に掲載する25種のアリの、それぞれのページにあるQRコードから見るすることができます。そして今月号では、お試しとして、最もメジャーなアリ・クロヤマアリの動画を紹介しようと思います。携帯電話などから右のQRコードを読み取って、ぜひ動画をお楽しみください。



「QRコードといわれても、どうやって読み込むかわからない」という方は、以下の方法でも観ることができます。

①インターネットで下記のアドレスを入力する。

<https://youtu.be/LkcG14ULF1s>

②動画配信サイト「YouTube」を開き、「身近なアリけんさくブック」などと検索する（*動画のタイトルは「【身近なアリけんさくブック】6.クロヤマアリ」です）。

🐜○○アリが見つからない！

9月、暑かった夏も終わり、秋に突入し始めた頃、まだ撮影できていないアリが1種類だけありました。都内をはじめ、神奈川県の緑地や埼玉県の公園にまで足を延ばして探したのですが、まったく見つからないのです。参考になっているアリ図鑑には「真夏の暑い日の午後に、^{さなぎ}蛹をくわえて奴隷狩りをする様子を見ることができる」とあり、「もう夏も終わってしまったから、見ることはできないのかなあ」なんて、荒木さんと弱気になっていました。

わたしたちが見つけれなかったアリは、「サムライアリ」といいます。このサムライアリ、漢字にすると「侍蟻」と書くことから、ちょっとカッコいいイメージが浮かんだかもしれませんが、それだけでなく、実は凶暴で情け容赦ないアリです。

①オスアリとの交尾を終えたサムライアリの女王は、②クロヤマアリの巣に侵入すると、クロヤマアリの女王を殺して巣を乗っ取ります。③女王はそのまま乗っ取ったクロヤマアリの巣で産卵し、産卵した卵はクロヤマアリの働きアリに育ててもらいます。④そのうち、巣の



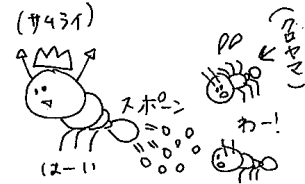
中のクロヤマアリが寿命で死んで数が足りなくなると、⑤成長したサムライアリの働きアリが新たにクロヤマアリの巣を襲い、クロヤマアリの巣にあった蛹や幼虫を奪って帰ってきて、(未来の) 奴隷を補充するのです。このような行動のことを、「奴隷狩り」というのですが……どうです、情け容赦ないでしょう。でも、これも立派な生存戦略なのです。

⑤新たな奴隷を調達するため、「奴隷狩り」をおこなう。

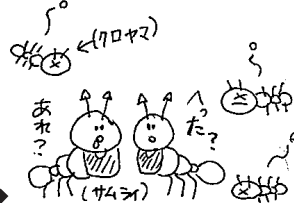


ということで、「奴隷狩り」中のサムライア리를撮影すべく、わたしたちは7月～8月にかけて集中的に探し続けました。(奴隷にする) クロヤマアリに見た目がよく似ているのも、サムラ

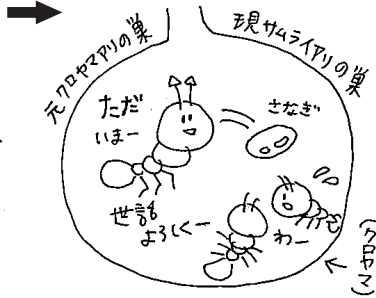
③出産する。子育てはクロヤマアリにおまかせ。



④子どもが大きくなる頃には、クロヤマアリは寿命で数が減る。



★奪って帰ってきた蛹や幼虫は、クロヤマアリに育ててもらう。



イアリの特徴の一つなのですが、奴隷狩りの時はワッサワサと大群で慌ただしく動くことが多いので、見逃す心配はしていませんでした。問題は、出会えるかどうかというだけで……。



▲からだの色もかたちも、クロヤマアリ(右)に似ているサムライアリ(左)

しかし、結局9月に入ってもサムライアリは見つかりませんでした。もう半分諦めモードでしたが、次は数年前にわたしが偶然サムライアリを見つけたことのある埼玉県の公園に行ってみることにしました(この公園が都内から遠いのです)。時期的にも最後の賭けのつもりでした。

9月下旬、荒木さんと一緒に件の公園に向かいました。公園に着いてさっそく、荒木さんから「どういう巣を探したらいいですか?」と言われたわたしは、「はて? サムライアリの巣?」と思わず考え込んでしまいました。なぜかという、サムライアリの巣口では、奴隷であるクロヤマアリの



▲暗く、静まり返った公園内

働きアリが見張っているのです。つまり、一見したところでは、どう見てもクロヤマアリの巣というわけです。「一か八かでクロヤマアリの巣を掘ってみて、サムライアリが出てくるか確かめていくしかないかなあ……」と言った時の、荒木さんのなんとも言えない顔が忘れられません。クロヤマアリにとってはほとんど迷惑な話ですし、かなり望みが薄い方法ですが、「もうやるしかない！」という気持ちでした。

そしてわたしと荒木さんは、クロヤマアリの巣を見つけては、スコップで掘って掘って掘りまくりました。場所を変えては掘って掘って……。荒木さんに「あきらめた方がいいのかな？」なんて弱気なことを言うと、「いやいや、がんばりましょう！」と喝！をもらいました。

その日の天気予報は午後から雨で、わたしたちはお昼ご飯を食べるのも忘れて、夢中でサムライアリを探し続けていました。雨が降るとアリは巣から出てこなくなるので、怪しくなる雲行きに、ますます焦りと不安が募りました。空腹と疲労で、だんだんお互いに口数も少なくなってきた頃……ふと荒木さんが、「吉澤さん、あそこの巣を掘ってみませんか」と、ちょっと大きめのクロヤマアリの巣を見つけてきました。この巣を、二人無言でひたすら掘っていると、1匹、何か違和感のあるクロヤマアリが出てきました。「ん？ これはクロヤマアリ……？」と思いながら、小さなプラスチックケースの中に入れて、目を凝

らしてじーっと観察しました。もしかして、と思いながらも、隣で荒木さんが血走った眼で見つめてくるので、ぬか喜びさせるようなことは言えません。と、その時、サムライアリの特徴の一つでもある、鎌状のアゴ（左下写真）がチラチラ見えました。その瞬間、「サムライアリだー！！」と叫んで、思わず二人で飛び跳ねていました。薄暗く、人気がない公園の中に、わたしたちの歓声がこだましました。



▲サムライアリのアゴ
(鎌(サーベル)状)



▲クロヤマアリのアゴ
(ノコギリ状)

その一匹のサムライア리를皮切りに、そこから沢山のサムライアリが出てきました。途中から降ってきた小雨もなんのその、気づいたらうれしさのあまり、地面に這いつくばってカメラのシャッターを押していました。その間、攻撃的なサムライアリに何度も噛みつかれましたが、この時ばかりはうれしさが勝って、痛みもあまり気にならなかったのです。

* * *

アリを追い続けて4ヵ月。やっとすべてのアリを見つけるこ

とができました。毎週いろいろな場所に出かけては、地面は這ってアリの追いかけてました。荒木さんの執念と、たくさんの奇跡で、すべてのア리를撮影できました。

『身近なアリけんさくブック』が出版された^{あかつき}暁には、掲載するQRコードから、ぜひ、アリの動きを見てみてください。きっとあなたも、小さなアリのおもしろい世界におどろいて、探しにでかけたくなることでしょう。

(第4回「インデックス、役に立たず!?(仮)」につづく)

- * 1…… かつおぶしのアイデアは、本誌2018年7月号「アリの観察は魅力的」の記事を参考にさせていただきました。結果は効果てきめん! 木下富美子さん、ありがとうございます。
- * 2…… 100円ショップ「セリア」に売っているズームレンズの正式な商品名は、「マクロレンズ」です。ぜひお試しあれ!

🍷おまけ解説1…… クロヤマアリが奴隷になるひみつ

サムライアリのお話を読んでいて、もしかしたら「なんでクロヤマアリの働きアリたちは、自分たちの女王を殺されたのに、サムライアリに従うんだろう?」と不思議に思った方もいるかもしれません。

じつは、乗っ取られた巣に元からいたクロヤマアリたちも、奴隷狩りで別の巣から運ばれてきたクロヤマアリの^{さなぎ}蛹たちも、サムライアリにグルーミング(触覚でなにか同士でペタペタ触り合うこと)されることによってサムライアリのにおいが移り、自分もサムライアリの一員と思うようになるのです。

🍷おまけ解説2…… 「サムライアリ」の名の由来

奴隷狩りをするサムライアリの姿が「侍」に似ていることからその名が付けられたと言われていますが、働かず、食べてばかりのいわゆる「穀つぶし」である武士階級を皮肉った、という説もあるそうです。

アリの研の4コマ

みぞぐち ともや

吸虫管とサムライアリ

